

ビール大麦技術資料 1月号

令和6(2024)年1月18日
下都賀農業振興事務所

重点ポイント

- ①2.5 葉を過ぎたらすぐに麦踏みを始めましょう！
- ②麦踏みは2週間は間を空けて実施しましょう！
- ③雑草防除をしましょう！
～茎葉処理剤の効かないスズメノテッポウが散見されます～

1 生育概況と気象の経過（小山市アメダス）

12月～1月にかけて平年に比べて気温は高く推移しましたが、降水量は少なくなりました。11月中～下旬に播種したほ場では、生育の早まりや分けつ数の増加はあまり見られず、おおむね平年並みの生育です。12月以降に播種したほ場では、乾燥による生育遅延が散見されます。

ほ場の状態をよく確認して、被害防止のために麦踏みを実施しましょう。

	12/1-15	平年差・比	12/16-31	平年差・比	1/1-15	平年差・比
平均気温	8.4℃	+2.1℃	5.1℃	+1.0℃	3.8℃	+0.8℃
降水量	13mm	62%	5mm	24%	4mm	26%
日照時間	98時間	113%	112時間	107%	103時間	102%

2 気象庁の1か月予報（1月18日発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）					
気温	関東甲信地方	向こう1か月 01/20～02/19	10	20	70
		1週目 01/20～01/26	10	30	60
		2週目 01/27～02/02	10	20	70
		3～4週目 02/03～02/16	20	30	50
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 01/20～02/19	20	40	40
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 01/20～02/19	40	30	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2月下旬頃まで気温は高くなる見込みです。
タイミングを逃さずに麦踏みを実施しましょう。



3 これからの栽培管理

◎麦踏みを実施しましょう

播種時期により生育にばらつきが出ています。しっかり葉齢を確認して麦踏みを行ってください。

2.5 葉前に行うと、葉を切ってしまうとその後の回復に時間がかかる等、悪影響が起こる場合があります。

麦踏みには過剰生育を抑制しながら、分けつを旺盛にし、根張りを深くする効果があります。

乾燥が続いている場合には、幼植物の浮き上がりを防ぎ、鎮圧により土が風に飛ばされにくくなる効果が期待できます。

目安：合計 4~5 回

1 回目・・・2.5 葉期以降

2 回目以降は前回の麦踏みの2週間後

最後・・・莖立ち期直前

※莖立ち期直前の麦踏みは早すぎる莖立を抑え、穂揃いを良くし、成熟ムラのない倒伏しにくい麦にする効果があります。



2.5 葉過ぎたら麦踏み可能です！



麦踏みは軽量の車両で！



注意点

- 重量のある大型トラクター等で行う場合は、接地面積を大きくするよう工夫しましょう。
- 土壌水分が高いときは、土壌が固くなり生育不良を招くので避けましょう。



農業機械を使用する時は、転落・転倒等の事故のないように十分注意しましょう！



茎葉処理剤の効かない スズメノテッポウが散見されます

近年、県内各地でスルホウレニア系（ハーモニー）抵抗性スズメノテッポウが散見されます。**麦収穫後～次作にかけて総合的防除により対処しましょう！**

抵抗性スズメノテッポウの防除のポイント

- ① プラウ等で天地返しし、雑草種子を土中に埋め込みましょう！
- ② 耕起前に非選択性除草剤（ラウンドアップ等）を散布しましょう！
- ③ 土壌処理剤の効果を高めるため、
液剤は登録の範囲内で希釈水量を多めに散布しましょう！
- ④ 砕土は丁寧に行い、均等な処理層を作りましょう！

播種後に湿潤な暖冬で推移すると、スズメノテッポウは「だらだらと発生」が続きます。そのため茎葉処理剤による防除が広く行われていますが、抵抗性スズメノテッポウには効果が低いため、発生ほ場では防除方法を見直しましょう。

～栃木県からのお知らせです～

11月～翌1月は、「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。



- 安全作業の第一歩！ 農薬散布時の身支度は万全に！
- いつものチェック！ 農薬使用の際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！
- 農薬散布のその前に！ 風量や風向きに注意して、飛散防止に努めましょう！
- 周辺への配慮！ 住宅地等でやむを得ず農薬を使用する際は十分に配慮しましょう！

問い合わせ先

栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0282-24-1101

HP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html>